

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年12月11日発行 No.58

『天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。』

(新約聖書 ルカによる福音書 2:10~12)

<神戸ドイツ学院の小さいお友達と一緒に祝う合同クリスマス!! Welcome to KIU チャペル!!>

先週金曜日、お隣の「神戸ドイツ学院ヨーロッパンスクール」の子供たちと一緒に合同クリスマス礼拝を行いました!! 初めての試みにこちらドキドキでしたが、来てくれた皆さんの笑顔がチャペルを包んでくれているようで、とても楽しい一時となりました!! 同じ六甲アイランドに位置する学校同士、これからも楽しく有意義な企画を作り上げて行きたいですね!! また遊びに来てね!!(^o^)/"



寒い中元気に歩いて来てくれました



約70名の出席者で賑わうチャペル



お馴染みのクリスマスソングを合唱



クリスマスとサウザンのお話をしました



ドイツ学院からも歌のプレゼント!!



帰りにはサンタからのプレゼントも!?

<美しい歌声がチャペルを包む…。トワイライトベルズを迎えてのチャリティーコンサート!!>

この季節、チャペルは様々なイベントの会場となり、喜びの声に満ち溢れます。先週土曜日には、トワイライトベルズの皆さんをお招きし、難病ブルーリ潰瘍の子供たちのためのチャリティーコンサートが行われました!! 現代の宗教曲からお馴染みのクリスマスソング、また参加者も一緒に歌う時間も用意され、会場が一つになって盛り上がりました!! 年2回のコンサートでお世話になっているトワイライトベルズの皆さん来年も、ぜひもよろしくお願いたします!!



T・ベルズの歌声にうっとり…



神戸ドイツ学院の子供たちの絵やパッチワークキルト等チャペル内に展示された装飾の数々



一つひとつろうソクを準備するボランティアの学生たち その数、なんと2000個!!



夕闇迫る頃、KIU キャンパスは幻想的に輝き始める…。今年も「光の回廊」ついに開幕!!



近藤センター長 渾身の聖書朗読



私も魂を込めて福音書を朗読しました



神戸教区小林主教の心温まるメッセージ



穏やかなろうソクの灯りがKIUを彩る



学生サーバーは受付でも大活躍!!



満員のチャペル!! 感謝感激!!



八代学院長のお祈り



学生表彰もあわせて行いました

12月6日(水)の17:00から、KIUチャペルでは多くの出席者を迎えてクリスマス礼拝を執り行ないました!!(出席者は昨年比10%増の120人!!)特に今年は、9月に就任されたばかりの神戸教区主教 小林先生を説教者としてお迎えし、共に礼拝を捧げることができました!!小林主教は、よく知られているクリスマス物語を今一度見直し、そこから「主があなたの存在を本当に大切に想っておられる」という心温まるメッセージを参加者全員の心に届けて下さいました。お忙しい中の奉仕に心から感謝申し上げます!!

また、この日は今年度、クラブ活動等で目覚ましい活躍をした学生を称える学生表彰が行われ、総勢12組(団体・個人含む)に下村学長より賞状が贈られました。ピシッとスーツを着こなし、名前を呼ばれたら「はいっ!!」と大きな声で返事のできる体育会の面々はとても遅く、また違った雰囲気やチャペルに醸し出していたように思います。この取り組みを、ぜひ次年度以降の活躍や成長に繋げてもらいたいと思います!!おめでとうございます!!

満員となったチャペル、大きな喜びで包まれたクリスマス礼拝、様々な形でご協力頂いた皆様に、深く御礼申し上げます。ありがとうございました!!



礼拝後、スタッフみんなで「はい、チーズ!!」



退場の様子 サーバーもホッ?



来年度も活躍を祈ります!!



大盛り上がりのじゃんけんゲーム 日本文化部は手作りの羊羹が大好評!!

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

12月4日(月) テーマ:「光と影」

小林 敬一郎(経済学部)

今日は、敢えてチャペルのライトを半分消してあるが、その違いに事に気付いた人は何人いるだろうか?それぐらい現代社会では「光と影」を意識する人が少なくなっているかもしれない。この2つのモチーフは、昔から様々な芸術作品に影響を与えてきた。光と影、表と裏、善と悪、虚と実…。その中から人間の感情が生まれたと言っても過言ではない。「かぐつち」という言葉は「陰口」の基となった言葉であるが、今のように否定的な意味合いだけでなく「自分に足りない事を補ってくれている」という戒めとしても使われていた。「かぐ」は日の神、「つ」は「之」、「ち」は土を表し、私たちの身の周りにある様々な力を示していた。KIUの周りの自然も素晴らしい。この力を覚えつつ歩もう。

12月5日(火) ※この日は音楽礼拝、オルガニストの伊藤純子先生の演奏と聖歌隊の歌声に耳と心を傾けました。

12月6日(水) テーマ:「クリスマスプレゼント」

野間 光顕(チャプレン)

皆さんはサンタクロースにまつわるファンタジーをどう考えているだろうか? ある幼児教育の専門家によると、「大人に比べ圧倒的に弱く小さい子供という存在は、生きながらにして様々な困難や不自由を抱えているが、その中で大人のように計算や予測に捉われることのない夢やファンタジーの力、そこに伴う奇跡の力が、子供に勇気と希望を与える」のだそうだ。考えてみれば「クリスマスプレゼント」は不思議な習慣ではないだろうか? 経済不況が世界的に叫ばれているこの時代でも、欲しい物の代わりにお金や商品券を求める人はいない。やはりそこには、クリスマスの贈り物を通して紡がれてきた喜び、文化とも言える営みが存在しているのだ。クリスマスへの準備を進めるこの時、今一度、私たちに与えられている大きな恵みと喜び、その原点である神の子イエスに目を向けたい。

12月7日(木) テーマ:「江戸しぐさと現代日本人」

中矢 英俊(経済学部)

1603年に江戸幕府が建てられたが、その時の江戸の人口は約15万人程であったそうだ。それが1700年代には100万人(この時代のロンドンが80万人、パリが50万人!!)と、この時代、江戸は世界で最も人口が多い町であった。そこで大切にされてきたのが「多様性」だ。大名から武士、町民、職人、農民等、様々な背景を持つ人が集まり、協力しながら生活を営んでいた。またそんな時にもう一つ大切にされたのが「江戸しぐさ」の存在だ。「傘かしげ」や「拳腰浮かせ」など、相手に迷惑をかけないよう、相手への気遣いを自らの小さな振る舞いの中に活かしていた。翻って現代の私たちはどうだろうか? ガムやタバコの吐き捨て、歩きスマホなど挙げ始めたらキリが無い。今一度、私たちの文化の源に流れる「相手を思いやる精神」を見直してみてもいいだろうか?

12月8日(金) テーマ:「真・行・草」

小林 敬一郎(経済学部)

今日のお話のタイトルは、中国の漢字分類を言葉であるが、それ以外にもたくさんの意味を含んでいる。「真」は「まこと」、お寺や教会、祈りなど神の力に繋がるものを指す。「行」は「間」とか「普通」、そして「草」は「遊び心」を表す。私は、学生時代の師匠から「真・行・草を学べ」と教えられた。働きながら大学に通い、時に病気になって遠回りをした事があった。苦しかったが、回復してまた働きながら学校に通う、「二足の草鞋(わらじ)」のような生活を続けてきた。今になって思うのが、この時の師の言葉が自分の生き方の中の大きなテーマになっている。何を行うにしても、物事には「余裕」や「遊び心」が必要であり、それは大学の教育に於いても同じであるように感じる。様々な場面で息苦しさを覚える時代だからこそ、改めて「真・行・草」の精神を心に刻みたい。

(文責:野間 光顕)